

地方独立行政法人長野県立病院機構
令和元年度 評価結果（たたき台）

令和 2 年 月

長 野 県

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の令和元年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を行った。

第1 年度評価の概要

1 年度評価の目的

年度評価は、評価対象年度以降における病院機構の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化、透明性の確保に資すること等を目的とする。

2 年度評価に関する基本方針等

年度評価は「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の各事業年度の業務実績に関する評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて行う。

3 年度評価の視点

(1) 令和元年度の年度計画の実施状況に対する評価の視点

年度計画に沿った病院運営が行われ、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善が図られているかどうかを検証し、取組の状況及び成果について評価を行う。

(2) 平成30年度評価の「今後に向けた課題」への取組に対する評価の視点

平成30年度評価で指摘した課題を克服するため、具体的な取組が行われ、改善されているか、あるいは改善の見込みがあるかどうかを検証し、課題への対応状況について評価を行う。

(3) 中期目標の期間（平成27～令和元年度）の進捗状況に対する評価の視点

令和元年度における取組が、中期計画の着実な達成のために十分なレベルに達しているかどうかを検証し、中長期的な視点から評価を行う。

4 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

年度評価を行うにあたり、長野県附属機関条例及び実施要領の規定に基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）を7月31日、8月6日及び8月21日に開催し意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

氏名	役職等
鮎澤英之	あがたグローバル税理士法人 公認会計士、公認不正検査士
○小口壽夫	諏訪赤十字病院 名誉院長
川合博	前伊那中央病院院長
田下佳代	弁護士 県人事委員会委員
浜田淳	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授
宮坂佐和子	諏訪赤十字病院 副院長兼看護部長
山上哲生	大日本法令印刷株式会社 代表取締役社長

(50音順、敬称略、○は委員長)

第2 評価結果

1 総合評価

県による評定	病院機構による評定	A
--------	-----------	---

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕

- S 年度計画を大幅に上回って達成している
- A 年度計画を達成している
- B 年度計画を下回っており、改善を要する
- C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

【評定の理由】

- 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
地域医療・へき地医療、高度・専門医療など、県立病院の主たる目的である医療の提供については各県立病院の特色を活かして県民のニーズに的確に対応し、目標は達成しているものと認められる。
- 業務運営の改善及び効率化に関する事項
病床利用率は全病院で未達成であったが、病床利用率向上に向けた取組がされていること、病院機構が一体となって業務運営の改善に取り組んだことから、目標は概ね達成されていると認められる。
- 財務内容の改善に関する事項
経常収支比率は99.4%と目標の100%に及ばず、目標を達成していない。
資金収支については75百万円計画に対し赤字を縮減し年度計画は上回り、単年度では▲834百万円と大幅に下回る結果となった。長期借入金の償還額の増加が一因と認められた。

以上のことを総合的に判断し、令和元年度における地方独立行政法人長野県立病院機構の取組は一定の成果が表れていると認められ、総合評価を とした。

【評価委員会の意見】

-
-
-

医療を取り巻く環境が大きく変化しているなか、病院機構として県民の命を守る地域医療や専門医療を持続的に担っていくため、引き続き地域のニーズに対応し、医療の質の向上を図るとともに、経営改善の取組を継続することを期待したい。

2 項目別評価

(1) 大項目「第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の評価

県による評価		病院機構による評価	A
--------	--	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

- S 年度計画を大幅に上回って達成している
- A 年度計画を達成している
- B 年度計画を下回っており、改善を要する
- C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

【評価の理由】

- 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項に関する取組は、年度計画を達成している。
- 地域医療、高度・専門医療の提供
 - ・阿南病院及び木曾病院は、無医地区への巡回診療や診療所の支援を通じ、へき地における医療提供により県立病院の使命を果たした。
 - ・信州医療センターでは第二種感染症指定医療機関としてCOVID-19に対応するなど、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たしたと認められた。
 - ・こころの医療センター駒ヶ根では、子どものこころ診療センターを開設し、児童・思春期精神医療の充実が図られた。
- 地域における連携とネットワークの構築
 - ・こども病院で、医療的ケアが必要な在宅患者に対応するため訪問診療センターを開設したことや、リニアックなどの高価な医療機器の成人患者への活用拡大をし、地域医療機関との連携を進めたことは、地域における医療機能を向上させたと認められた。
- 人材の確保・育成
 - ・信州木曾看護専門学校は県内医療機関への就職率が90%を超え、地域医療に貢献できる看護人材を輩出したこと、こども病院では連携大学院を開設し、より専門性の高い医療人材の育成を開始したことは人材の確保・育成に資する取組であると認められた。
- 安全・安心な医療の提供
 - ・こころの医療センター駒ヶ根で「薬剤師外来」を開設し、患者満足度及び再入院抑制を図ったことは、安全・安心な医療の提供につながる取組と認められた。

【評価委員会の意見】

-
-
-

【今後に向けた病院機構全体の課題】

- COVID-19の影響を可能な限り把握し、感染防止に重点を置いて医療の提供に努められたい。
- 引き続き、県民に対し、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。
- 連携大学院教育や木曾看護専門学校の運営を通じて県内の医療機関に従事する人材を積極的に養成し、県内の医療水準の向上、人材の輩出に努められたい。

エ 小項目別の評価

小項目	県の 評価	機構の 評価
1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供		
(1) 地域医療の提供		A
(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進		A
(3) 高度・専門医療の提供		A
(4) 災害医療などの提供		A
(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進		A
2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上		
(1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携		A
(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化		A
3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献		
(1) 医療従事者の確保と育成		A
(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援		A
(3) 信州木曾看護専門学校の運営		A
(4) 県内医療水準の向上への貢献		A
(5) 医療に関する研究及び調査の推進		A
4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供		
(1) より安全で信頼できる医療の提供		A
(2) 患者サービスの一層の向上		A

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

- S 年度計画を大幅に上回って達成している
- A 年度計画を達成している
- B 年度計画を下回っており、改善を要する
- C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 患者数

入院は目標を上回った病院はなく、阿南病院で大きく下回った。外来はこころの医療センター駒ヶ根、木曾病院及びこども病院で目標を上回った。

区 分		令和元年度 実績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信州医療 センター	入院	88,942人	90,261人	98.5%
	外来	120,749人	123,535人	97.7%
こころの医療 センター駒ヶ根	入院	37,400人	38,228人	97.8%
	外来	41,189人	37,200人	110.7%
阿南病院	入院	17,053人	21,300人	80.1%
	外来	46,882人	49,254人	95.2%
木曾病院	入院	43,450人	49,037人	88.6%
	外来	125,512人	125,475人	100.0%
こども病院	入院	52,647人	54,675人	96.3%
	外来	66,776人	66,557人	100.3%

(イ) 新規患者数等（信州医療センター）

手術件数及び分娩件数は目標を上回った。

区 分	令和元年度 実績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
新外来患者数	21,352人	25,500人	83.7%
手術件数（手術室）	1,739件	1,600件	108.7%
内視鏡検査件数	6,334件	8,000件	79.2%
分娩件数	230件	220件	104.5%

(ウ) 在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）

3病院が目標を上回った。

区 分	令和元年度 実績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信州医療センター	8,829件	7,460件	118.4%
こころの医療センター駒ヶ根	1,982件	1,750件	113.3%
阿南病院	2,104件	2,200件	95.6%
木曾病院	5,433件	4,850件	112.0%

(イ) 紹介率及び逆紹介率

紹介率はこども病院で下回った。逆紹介率は阿南病院と木曽病院で目標を上回った。

区 分		令和元年度 実 績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	紹介率	66.2%	59.4%	6.8ポイント
	逆紹介率	13.0%	16.7%	△3.7ポイント
阿 南 病 院	紹介率	22.5%	20.0%	2.5ポイント
	逆紹介率	15.3%	15.0%	0.3ポイント
木 曽 病 院	紹介率	28.1%	25.0%	3.1ポイント
	逆紹介率	21.5%	17.0%	4.5ポイント
こ ども 病 院	紹介率	75.4%	77.0%	△1.6ポイント
	逆紹介率	75.1%	80.0%	△4.9ポイント

(オ) 認定資格の取得人数

区 分	令和元年度実績	令和元年度目標値
認 定 看 護 師 資 格	1 人	2 人

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>費用対効果を考慮しつつ、地域の需要に応じていくため、今後も病院機構に必要な人材の確保と養成に努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保については、医師臨床研修マッチングにおいて、多職種協同による活動の結果、定員の3人を確保した。 ・資格職種の求人に当たり、正規職員としての雇用を求める声がハローワーク等を通じ多く寄せられているため、本部と連携し、採用試験を随時実施するとともに、人材派遣会社を活用し、産育休取得者、退職者の補充に努めた。また、職種ごとに資格取得等研修派遣計画に沿って研修に派遣するなど計画的な育成に努めている。特に医師の負担軽減にもつながる看護師特定行為研修に1名を長期派遣した。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の欠員に対しては、ハローワークや人材派遣業者への求人募集を迅速に行い、早期の補充に努めた。また、研修会の開催時期や時間を見直し、各種研修会に参加しやすい環境づくりを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関で行う合同就職ガイダンスへの参加、情報誌「TSUNAGU」に木曾病院と共同で記事を掲載し、職員募集を行う等、病院からの情報発信に努めるとともに、修学資金貸与等の制度を活用して確保に努めた。 ・将来的な医療技術者の確保に向けた、「高校生のための医療体験」事業を開催した。 ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・8月に医学生を対象とした病院見学を開催し、1名の参加があった。 ・医学生、看護学生、リハ学生、栄養学生等実習生の受け入れを行った。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学との連携大学院開講を活用し、全国から優秀な医療人材を確保するとともに、県内の小児周産期医療の変化に柔軟に対応できる人材の養成を進めていく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・機構職員向けに課程別研修・選択研修・専門研修を実施し、知識・技術の向上に努めた。 ・看護職に加え、医療技術職や事務職の合同就職ガイダンス等への出展拡充を図った。特に近年確保が困難となっている薬剤師に関しては、機構単独の説明会を東京で開催したところ19名の参加が得られ、インターンシップの参加増に繋がった。 ・4月の組織再編により各病院へ薬剤部を新設。5病院の薬剤部が一体となって確保や養成を図るための基本理念、基本方針及び求める薬剤師像を11月に制定した。 <p>【評価】</p> <p>こども病院で新たに連携大学院教育を始めるなど、専門性の高い医療従事者の育成と人材の確保に取り組んだことが認められた。</p>

<p>引き続き、県内の医療機関に従事する人材を積極的に養成することで、県内の医療水準の向上に貢献していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 同上 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 信州大学医学部との連携大学院協定に基づき精神科研修・研究センターにおいて、今年度1名の医師を採用した。また、地域の薬局から研修者3名の受け入れを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他病院の協力施設、連携施設として研修医、専攻医を受け入れ、「へき地医療臨床プログラム」に基づく養成を行った。 ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月に高校生を対象とした病院医療体験を開催し、13名の参加があった。 ・ 中南信地区の高校3年生全員に配布される就職活動用地元企業紹介冊子「TSUNAGU」へ、阿南病院とともに病院紹介記事を掲載し、将来の就職選択肢となるよう、認知度の向上を図った。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国から医師をはじめ多職種の人材を確保するため、当院で働くことの魅力を高め、情報発信することが重要。このため、信州大学との連携大学院、病院独自の研究助成、独自のセミナー開催などの取組みを行っている。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療機関等の従事者を対象にシミュレーション教育指導スキルアップ研修を開催し、指導者育成を実施した。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【評価】</p> <p>連携大学院教育や研修センターの指導者育成など、人材を積極的に養成し、県内医療の水準の向上に努めたことが認められた。</p>
---	---

<p>地域の医療・介護資源を効果的に活用するため、地域医療構想及び地域医療構想調整会議での議論を踏まえ、地域の医療機関との機能分化・連携を図るとともに、病院規模を中長期的な視点での検討及び取組を始めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の実現に寄与している。また、地域包括ケア病棟は、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たしている。 ・地域医療構想調整会議での議論および今後の当地域の人口推計や疾病構造の変化等を踏まえて、病院規模及び機能について中長期的な視点での検討を行っていく。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関及び関係機関との連携強化を進めるため、南信地域の総合病院（3病院）と上伊那地域全ての精神科医療機関（2病院、4クリニック）への訪問等により打ち合わせを行った。 ・伊那中央病院の看護師及びMSWが来院し、ケース検討会議を開催した。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想における当院の役割や患者数の動向等を踏まえ、公的病院ガイドラインへの対応にかかる病棟再編を病院運営検討委員会で検討し、地域医療の推進に必要な病院規模へ再編する。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質の向上と経営効率の観点から、病床規模の適正化を図り、許可病床数を239床から199床へと変更した。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院として紹介患者に対する医療の提供、医療機器や専用病床の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施等を進め、地域に開かれた病院として地域の医療機関との連携を推進していく。また、病院将来構想委員会を新たに設置し将来のあるべき姿について議論を始めた。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想調整会議における議論を注視しながら、病院と一緒に中長期的な視点で病院の規模及び機能分化等について具体的な検討を始めた。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>木曽病院で医療の質の向上を目指し病床数を削減するなど取組が進んだほか、地域に必要な医療提供体制について具体的な検討が進んでいることが認められた。</p>
---	--

(2) 大項目「第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の評価

県による評価		病院機構による評価	A
--------	--	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

- S 年度計画を大幅に上回って達成している
- A 年度計画を達成している
- B 年度計画を下回っており、改善を要する
- C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

【評価の理由】

- 「病床利用率の向上」以外の各小項目における取組が、年度計画を達成している。
- 組織運営体制づくり
 - ・働き方改革関連法に対応するため、勤怠管理システムを導入し、職員の正確な勤務時間の把握に努めたことは、特筆すべき取組である。
- 経営力の強化
 - ・経営に一体的に取り組むための意識向上が必要であるが、第3期中期計画を作成する過程で機構職員の経営参画意識の向上が認められた。
 - ・木曽病院の許可病床の削減（239床→199床）や介護医療院の開院（20床）などは、病床利用の現状に合わせたものであり、地域医療構想の推進に寄与する取組と認められた。
- 経営改善の取組
 - ・病床利用率は、すべての病院で目標を達成しておらず、改善が必要である。

【評価委員会の意見】

-
-
-

【今後に向けた病院機構全体の課題】

- 収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。
- 働き方改革関連法への対応を引き続き行う一方で、可能な限り給与費の抑制に努めていただきたい。
- 職員給与費対医業収益比率は改善している病院もあるが、今後の持続的な病院運営に向け、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を継続していただきたい。

エ 小項目別の評定

小項目	県の 評定	機構の 評定
1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり		
(1) 柔軟な組織・人事運営		A
(2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援		A
2 経営力の強化		
(1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上		A
(2) 経営部門の強化		A
3 経営改善の取組		
(1) 年度計画と進捗管理		A
(2) 収益の確保と費用の抑制		A
(3) 情報発信と外部意見の反映		A
(4) 病床利用率の向上		B

[評定区分と判断の目安となる業務実績]

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 医療材料費／医業収益比率

こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院、木曽病院で目標を達成した。

区 分	令和元年度 実 績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	27.4%	26.8%	0.6ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	5.9%	6.1%	△0.2ポイント
阿 南 病 院	16.1%	16.6%	△0.5ポイント
木 曽 病 院	21.4%	23.0%	△1.6ポイント
こ ども 病 院	21.9%	20.0%	1.9ポイント

(イ) ジェネリック医薬品使用率

3病院で目標を上回った。

区 分	令和元年度 実 績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	91.7%	90.0%	1.7ポイント
阿南病院	86.7%	85.0%	1.7ポイント
木曾病院	81.9%	85.0%	△3.1ポイント
こども病院	88.6%	80.0%	8.6ポイント

(ウ) 病床利用率

全病院で目標を下回った。

区 分	令和元年度 実 績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	79.9%	83.8%	△3.9ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	78.1%	80.0%	△1.9ポイント
阿南病院	57.4%	70.0%	△12.6ポイント
木曾病院	69.4%	78.6%	△9.2ポイント
こども病院	73.1%	77.5%	△4.4ポイント

《病床数》

- ・信州 平成30年11月まで226床、12月から215床（結核病床、感染症病床、地域包括ケア病床を除く）
- ・駒ヶ根 129床
- ・阿南 平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床
- ・木曾 令和2年2月まで154床、3月から151床
- ・こども 180床

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>収支の大幅な改善につながった経営改善プログラムについて、取組を続けるとともに、進捗状況を把握し成果と課題を分析することで、今後の経営改善に活かしていただきたい。また、プログラム作成から期間が経過し、状況が変化していることから、収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病棟増床に伴い個室と2床室を整備し室料差額を設定し、当初から高い稼働率となっている。 ・泌尿器科の常勤医を確保し、患者数及び手術件数が増加した。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・タスクシフトを進めるとともに各部門において、超過勤務の実態を共有し、評価とヒアリングを行うとともに事前申請を徹底し、超過勤務手当を抑制した。 ・入院患者数の目標を病床稼働率80%（1日平均103.2人）から病床利用率80%（同104.7人）に見直し経営改善に努めた。 ・収益を確保するため、コアチームによる病床利用率アップの検討、多職種による適切な入院期間の評価、3ヶ月以内の再入院抑制などに取り組んだ。 ・施設・設備投資の先送りや経費など必要最小限の支出に取り組んだ。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・各科から増収案等が提案された経営改善プログラムの取組を行ったことにより、収益増につながったことから、今後も経営企画会議において経営改善プログラムの進捗状況を検証し、必要があれば新たなプログラムを策定して、取り組みを行う。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな経営指標（時間当り部門別採算）を導入し、全員参加の経営を推進するため、京セラコミュニケーションシステム（株）にアメーバ経営コンサルティングを委託。6月から導入準備を開始した。 ・PFM（Patient Flow Management）の導入に取り組み、他病院を視察するとともに、入退院支援加算、薬剤指導加算、栄養指導加算の増加に努めた。 ・収益の確保については、未収金対策として、督促手続きの適正化、弁護士への管理委託等を推進、外来患者の院外処方箋の運用の変更を行った。また、夜間休日外来の郡内患者に対しても預り金をお願いし、主に手持ち現金のない方を対象に医療費あと払いサービスの導入を行った。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善プログラムを進めるとともに、小児アレルギーや感染症に対応するため診療科を新設し診療体制を充実させるなど、新たな取組を柔軟に実施。経営企画室会議を中心に進捗管理、課題分析、実施決定を行っている。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの経営改善プログラムにより各病院が取組み、上半期の実績は49.3百万円の収益増であった。しかし、下半期は新型コロナウイルス感染症の影響により計画通りの収益の確保が出来なかったこともあり、結果として、令和元年度決算は148百万円の損失となった。 <p>【評価】 経営改善プログラムの取組が進められたほか、新たな収益の確保と費用の抑制に取り組んだことが認められた。</p>

働き方改革関連法を踏まえ、各病院を持続的に運営し地域の医療を守るために、必要な措置を検討し、積極的に実行していただきたい。

【課題への取組】

- 信州医療センター
 - ・全職員を対象に、紙ベース及び電子媒体での出退勤管理及び時間外勤務命令簿による、職員の労働時間の的確な把握の取組を開始した。（10月以降は勤怠管理システムへ移行）
 - ・患者に対するインフォームドコンセント及び院内委員会等の原則時間内実施を徹底している。
 - ・タスクシフティングの取組として、医師事務作業補助者、看護補助者の増員及び来年度から看護師特定行為研修施設として事業実施するため、国へ認可申請し、実地調査の上2月末に研修機関の指定を受けた。
 - ・医師に対して、連続当直とならない勤務体制の検討や、当直翌日の勤務内容の配慮と休暇の促進、予定手術前日の当直等に対する配慮等を実施している。
 - ・医師の超過勤務のあり方については、当院の実態を踏まえ、厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」の報告書に沿って引き続き検討していく。
- こころの医療センター駒ヶ根
 - ・4～9月は電子カルテシステム上のタイムカード機能により、10～3月は機構で統一した勤怠管理システムにより適切な出退勤管理を行った。
 - ・勤務環境改善検討会議において、医師や看護師のタスクシフトなどの負担軽減策を多職種で定期的に検討した。
- 阿南病院
 - ・各種会議、研修会の時間内開催に努めるとともに始業点検が必要な所属は時差勤務の承認を得て、所定内労働時間での業務が終わるよう超勤の縮減に努めた。さらに、医師業務の負担軽減のため、非常勤医師の採用等により当院の宿日直回数の削減を図るとともに、病棟クラーク等のタスク・シフティングの継続実施を行った。
- 木曾病院
 - ・4月から自己申告による出退勤管理を開始し、9月から磁気カードによるシステム管理を実施した。
 - ・年休取得状況の各部署への配布による年次有給休暇5日間の取得推進、毎月の安全衛生委員会での資料配布等により時間外勤務の上限の遵守の徹底を図った。
 - ・医師等の負担軽減策として、患者等への症状や治療方針の説明の原則勤務時間内の実施を推進した。
- こども病院
 - ・これまでも医師負担の軽減を図るため、医師事務作業補助者を13人配置するなどタスクシフトを進めている。今後はNICU・PICU医師の交代制勤務導入や看護師の夜勤回数適正化など抜本的勤務体制の見直しなどに取り組んでいきたい。
- 本部事務局
 - ・機構独自の人事給与システム及び勤怠管理システムの構築に着手。9月からの試行を経て、1月から勤怠管理システムによる全職種の勤務予定表の作成及び出退勤打刻の運用を開始し、職員の労働状況の把握・改善を図った。

【評価】

働き方改革関連法に対しては、独自の人事給与システム及び勤怠管理システムを導入するなど、取組が進んだことが認められた。

<p>令和2年度の診療報酬改定への対応について、医療の質の向上と経営効率の観点から、研究及び分析を行うとともに、速やかに実行できるように取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定対策チームを経営企画室会議の下で立ち上げ、個別改定項目について当院で4月から実施可能な内容を洗い出した。 ・診療報酬改定に伴う当院における影響額のシミュレーションを行い、経営企画室会議等へ情報提供を行った。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度診療報酬改定に向け、検討されているギャンブル等依存症について、医師と看護師が専門研修を受講するとともに、すでにプログラムを実施している先進病院を視察し、開始に向けた検討を行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みのために早い段階から診療報酬改定の説明会等に参加して情報収集を行った。改定案公表後には説明会を開催し、当院に必要な戦略を立て、次年度への速やかな対応を行った。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・病床利用の現状にあわせて病床規模を見直し、外来収入の増収と診療機能の充実を図るため、許可病床数を239床から199床へと変更した。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな診療報酬を得るための施設基準取得やDPCデータの分析を積極的に行い収益の確保も目指していく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定については、早い段階から各病院や本部において情報収集に努め、自院の収益に与える影響の試算や今後の取り組みについて対応を行った。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>令和2年度の診療報酬改定については、各病院で情報収集に努め、速やかに分析・対応し、病院経営の改善に積極的に取り組んでいることが認められた。</p>
--	---

<p>職員給与費対医業収益比率は改善している病院もあるが、今後の持続的な病院運営に向け、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を継続するとともに、給与制度の見直しの取組をさらに進めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・病床利用及び医療・看護必要度に応じた適正な人員及び職種配置に引き続き努める。 ・給与制度の見直しについては機構本部が実施中である。 ・非常勤職員の離職防止と同一労働・同一賃金の観点から、非資格職の非常勤職員の報酬について、経験年数等に応じて評価する方針を決定し、令和2年4月から適用している。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・適正かつ効率的な人員配置に向けた取組みを継続した。 ・職員給与費対医業収益比率は 103.2%で前年度の 106.8%から 3.6%改善した。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・病棟再編、訪問看護ステーションの開設等に合わせ、適正な医療スタッフの人員配置を検討していく。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・当院の定年退職者、木曽老人保健施設へのボランティア参加者、民間企業定年退職者等を対象に、短時間勤務してもらえよう、『プレミアムパートナー』と名付けて積極的に募集を行い、看護・介護補助者の確保を行った。 ・看護部の適正人員に向けての取組の一環として、院内応援体制表を作成し、運用を開始した。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を厳しく分析した上で、収益向上、医療安全・医療の標準化、働き方改革といった視点から人員配置に取り組むとともに、機構本部と連携して給与制度の見直しに取り組んでいく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員については昨年度に引き続き適正人員配置に向けた取組を行い、業務の数値化による必要人員の客観的把握と検証を行った。また、「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる人員数の試算を各看護師長自らが実践することにより、働き方改革にも対応可能な合理的な職場運営ができるようになった。 <hr/> <p>【評価】 働き方改革にも対応できる合理的な職場運営が認められた。 今後も給与費の抑制について積極的に取り組んでいただくことを期待する。</p>
---	--

(3) 大項目「第3 財務内容の改善に関する事項」の評価

県による評定		病院機構による評定	B
--------	--	-----------	---

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕

- S 年度計画を大幅に上回って達成している
- A 年度計画を達成している
- B 年度計画を下回っており、改善を要する
- C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

【評定の理由】

- 経常黒字の維持
 - ・ 経常損益は、経常収益が増加したものの、給与などの費用の増が上回ったことから年度計画を下回り、目標を達成していない（計画17百万円の黒字に対し、▲161百万円）。
- 資金収支の均衡
 - ・ 資金収支は、長期借入金の元金・利息がピークに近づいたこともあり、均衡しなかったが、年度計画を上回ったと認められる（910百万円の赤字に対し75百万円改善）。
 - ・ 一方、年度計画は上回ったが、収支は単年度で▲834百万円と巨額であり、今後の運営に影響が出るおそれがある。

【評価委員会の意見】

-
-
-

【今後に向けた病院機構全体の課題】

- 収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。（再掲）
- 資金収支の長期見通しについては、決算状況を反映し、機構内で共有するとともに、対応策について検討されたい。

エ 小項目別の評定

小項目	県の 評定	自己 評定
1 経常黒字の維持		B
2 資金収支の均衡		C

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕
 S 年度計画を大幅に上回って達成している
 A 年度計画を達成している
 B 年度計画を下回っており、改善を要する
 C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 損益の状況（病院機構全体）

（単位：千円）

科 目	令和元年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 計画	増減 (元-30)	増減 (決算-計画)
経常収益（ア）	23,862,966	23,763,042	23,720,414	99,923	142,552
医業収益	17,401,578	17,303,748	17,351,524	97,830	50,054
うち入院収益	12,402,744	12,481,914	12,539,676	▲ 79,170	▲ 136,932
うち外来収益	4,523,529	4,352,810	4,345,946	170,719	177,583
介護老人保健施設収益	355,078	361,728	378,532	▲ 6,650	▲ 23,454
看護師養成所収益	19,098	18,846	20,397	252	▲ 1,299
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	607,212	598,720	489,961	8,491	117,251
経常費用（イ）	24,006,064	23,345,675	23,702,958	660,389	303,106
医業費用	22,034,396	21,458,844	21,766,264	575,552	268,132
うち給与費	12,678,647	12,449,220	12,575,997	229,427	102,650
うち材料費	4,036,619	3,817,198	3,848,655	219,421	187,964
うち減価償却費	1,941,139	1,944,244	1,948,637	▲ 3,104	▲ 7,498
うち経費	3,314,198	3,182,899	3,313,770	131,299	428
介護老人保健施設費用	443,952	424,040	439,826	19,912	4,126
看護師養成所費用	151,977	154,907	145,043	▲ 2,930	6,934
一般管理費	340,197	319,787	337,439	20,411	2,758
財務費用（支払利息）	356,111	404,026	363,281	▲ 47,914	▲ 7,170
その他経常費用	679,430	584,072	651,105	95,359	28,325
経常損益（ア-イ）	▲ 143,098	417,367	17,456	▲ 560,465	▲ 160,554
臨時損益（ウ）	▲ 4,841	▲ 612	▲ 320	▲ 4,229	▲ 4,521
当期純損益（ア-イ+ウ）	▲ 147,940	416,755	17,136	▲ 564,694	▲ 165,076

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 損益の状況 (病院等別：前年度実績との比較)

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	R元	7,178,692	2,016,780	1,710,432	4,013,583	8,321,911	464,266	131,253	26,049	23,862,966
	H30	6,810,706	1,987,337	1,795,555	4,242,095	8,301,002	470,447	131,598	24,303	23,763,042
	差引	367,986	29,443	▲ 85,123	▲ 228,512	20,909	▲ 6,181	▲ 345	1,746	99,923
経常費用	R元	7,167,894	2,026,972	1,623,220	3,987,245	8,225,732	477,425	153,724	343,853	24,006,064
	H30	6,678,365	2,021,044	1,623,273	4,157,571	7,927,275	460,336	156,188	321,624	23,345,675
	差引	489,529	5,928	▲ 53	▲ 170,326	298,457	17,089	▲ 2,464	▲ 22,229	660,389
経常損益	R元	10,798	▲ 10,192	87,212	26,338	96,179	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 143,098
	H30	132,341	▲ 33,708	172,282	84,524	373,728	10,111	▲ 24,590	▲ 297,321	417,367
	差引	▲ 121,543	23,516	▲ 85,070	▲ 58,186	▲ 277,549	▲ 23,270	2,120	▲ 20,483	▲ 560,465
純損益	R元	8,710	▲ 10,653	87,130	24,672	95,635	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 147,940
	H30	134,134	▲ 33,837	170,827	84,521	373,291	10,111	▲ 24,590	▲ 297,703	416,755
	差引	▲ 125,424	23,184	▲ 83,697	▲ 59,849	▲ 277,656	▲ 23,270	2,120	▲ 20,483	▲ 564,694

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ウ) 損益の状況 (病院等別：年度計画との比較)

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	R元 (決算)	7,178,692	2,016,780	1,710,432	4,013,583	8,321,911	464,266	131,253	26,049	23,862,966
	R元 (計画)	6,842,796	1,993,892	1,832,943	4,209,449	8,184,221	483,527	132,563	41,023	23,720,414
	差引	335,896	22,888	▲ 122,511	▲ 195,866	137,690	▲ 19,261	▲ 1,310	▲ 14,974	142,552
経常費用	R元 (決算)	7,167,894	2,026,972	1,623,220	3,987,245	8,225,732	477,425	153,724	343,853	24,006,064
	R元 (計画)	6,812,499	2,085,729	1,638,969	4,166,852	8,037,874	473,722	146,473	340,840	23,702,958
	差引	355,395	▲ 58,757	▲ 15,749	▲ 179,607	187,858	3,703	7,251	3,013	303,106
経常損益	R元 (決算)	10,798	▲ 10,192	87,212	26,338	96,179	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 143,098
	R元 (計画)	30,297	▲ 91,837	193,974	42,597	146,347	9,805	▲ 13,910	▲ 299,817	17,456
	差引	▲ 19,499	81,645	▲ 106,762	▲ 16,259	▲ 50,168	▲ 22,964	▲ 8,561	▲ 17,987	▲ 160,554
純損益	R元 (決算)	8,710	▲ 10,653	87,130	24,672	95,635	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 147,940
	R元 (計画)	30,297	▲ 92,157	193,974	42,597	146,347	20,655	▲ 13,910	▲ 299,817	17,136
	差引	▲ 21,587	81,504	▲ 106,844	▲ 17,925	▲ 50,712	▲ 22,964	▲ 8,561	▲ 17,987	▲ 165,076

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 資金収支の状況 (病院機構全体)

(単位：円)

区 分	令和元年度 実績(a)	令和元年度 予算額(b)	差額 (a)-(b)
収入			
営業収益	23,219,365,413	23,131,500,000	87,865,413
営業外収益	581,948,264	547,839,000	34,109,264
資本収入	917,705,995	1,313,471,000	▲ 395,765,005
臨時利益	57,807	0	57,807
計 (ア)	24,719,077,479	24,992,810,000	▲ 273,732,521
支出			
営業費用	21,670,023,023	21,679,742,000	▲ 9,718,977
営業外費用	398,061,626	399,441,000	▲ 1,379,374
資本支出	3,483,477,619	3,823,462,000	▲ 339,984,381
臨時損失	2,250,500	320,000	1,930,500
計 (イ)	25,553,812,768	25,902,965,000	▲ 349,152,232
単年度資金収支 (ア)-(イ)	▲ 834,735,289	▲ 910,155,000	75,419,711

(オ) 医業収支の状況 (病院別)

(単位：百万円)

区 分		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
信州医療 センター	収益	4,839	5,359	5,230	5,444	5,633	5,928
	費用	5,867	6,191	6,160	6,369	6,374	6,814
	差引	▲ 1,028	▲ 832	▲ 930	▲ 925	▲ 741	▲ 885
こころの 医療センター駒ヶ根	収益	1,421	1,287	1,245	1,310	1,301	1,325
	費用	1,974	1,869	1,902	1,904	1,952	1,954
	差引	▲ 553	▲ 582	▲ 657	▲ 594	▲ 651	▲ 628
阿南病院	収益	895	871	930	963	920	862
	費用	1,596	1,574	1,566	1,587	1,566	1,563
	差引	▲ 701	▲ 702	▲ 636	▲ 623	▲ 647	▲ 701
木曽病院	収益	3,473	3,668	3,397	3,144	3,181	2,975
	費用	4,039	4,415	4,271	4,070	3,986	3,827
	差引	▲ 566	▲ 747	▲ 874	▲ 926	▲ 805	▲ 853
こども病院	収益	5,830	5,660	5,909	5,953	6,269	6,309
	費用	7,186	7,149	7,455	7,445	7,580	7,875
	差引	▲ 1,356	▲ 1,488	▲ 1,547	▲ 1,492	▲ 1,311	▲ 1,566
病院計	収益	16,458	16,846	16,710	16,814	17,304	17,402
	費用	20,662	21,197	21,355	21,375	21,459	22,034
	差引	▲ 4,204	▲ 4,351	▲ 4,645	▲ 4,561	▲ 4,155	▲ 4,633

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

オ 病院別の経営指標

(7) 医業収支、医業収益に対する職員給与費比率の状況

(単位：千円、%)

項目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども
医業収益	R元	5,928,841	1,325,695	862,457	2,975,300	6,309,286
	H30	5,633,408	1,300,933	919,519	3,180,699	6,269,189
	増減	295,433	24,761	▲ 57,062	▲ 205,400	40,097
医業費用	R元	6,814,094	1,954,136	1,563,163	3,827,919	7,875,085
	H30	6,374,362	1,951,899	1,566,221	3,986,164	7,580,198
	増減	439,733	2,236	▲ 3,059	▲ 158,246	294,887
医業収支 (医業収益－ 医業費用)	R元	▲ 885,254	▲ 628,441	▲ 700,705	▲ 852,619	▲ 1,565,799
	H30	▲ 740,954	▲ 650,966	▲ 646,702	▲ 805,465	▲ 1,311,009
	増減	▲ 144,300	22,525	▲ 54,003	▲ 47,154	▲ 254,790
職員給与費	R元	3,553,407	1,367,771	926,002	2,236,117	4,595,350
	H30	3,579,601	1,388,547	894,254	2,249,211	4,337,605
	増減	▲ 26,195	▲ 20,776	31,748	▲ 13,095	257,745
職員給与費/ 医業収益 比率	R元	59.9	103.2	107.4	75.2	72.8
	H30	63.5	106.7	97.3	70.7	69.2
	増減	▲ 3.6	▲ 3.5	10.1	4.5	3.6

- 信州医療センターでは、医業収益以上に医業費用が大幅に増加したことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が減少し医業収益が増加したため、低下した。
- こころの医療センター駒ヶ根では、医業収益の増加が医業費用の増加を上回ったことにより、医業収支が改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が抑えられたため、低下した。
- 阿南病院では、医業費用が減少したものの医業収益の減少を上回ったことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加し医業収益が減少したため、大幅に上昇した。
- 木曾病院では、医業収益の減少が医業費用の減少を上回ったことにより医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費は減少したが医業収益の減少を下回ったため、上昇した。
- こども病院では、医業収益が増加したものの医業費用の増加を上回ったことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加したため、上昇した。

(イ) 延患者数、病床利用率、入院・外来収益の状況

(単位：人、%、千円)

項目		区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども
延患者数	入院	R元	88,942	37,400	17,053	43,450	52,647
		H30	90,876	37,515	19,272	48,709	55,723
		増減	▲ 1,934	▲ 115	▲ 2,219	▲ 5,259	▲ 3,076
	外来	R元	120,749	41,189	46,882	125,512	66,776
		H30	120,801	40,051	47,667	127,418	64,946
		増減	▲ 52	1,138	▲ 785	▲ 1,906	1,830
病床利用率	R元	79.9	78.1	57.4	69.4	73.1	
	H30	81.2	78.5	60.4	78.1	78.0	
	増減	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 3.0	▲ 8.7	▲ 4.9	
入院収益	R元	3,873,354	1,025,973	482,443	1,615,866	5,405,108	
	H30	3,797,262	1,016,383	546,811	1,733,739	5,387,718	
	増減	76,091	9,590	▲ 64,369	▲ 117,873	17,391	
外来収益	R元	1,797,622	287,733	331,254	1,260,113	846,806	
	H30	1,575,435	270,213	329,359	1,350,739	827,063	
	増減	222,187	17,520	1,895	▲ 90,626	19,743	

- 信州医療センターでは、入院は急性期一般入院料2の維持、手術件数の増により、外来は外来化学療法や血液内科の治療実績が増え、いずれも増収となった。
- こころの医療センター駒ヶ根では、入院延患者数は微減したが、入院患者確保の対策を進めており、入院収益の増収につながった。外来延患者数はデイケア患者の利用が増加するなどし、外来収益も増収となった。
- 阿南病院では、整形外科の手術適応患者数が伸びなかったことなどにより、入院収益は減収となった。外来は外科の常勤医師を配置し患者数が伸びたが、全体では患者数が減少した。外来収益は前年度並みを確保した。
- 木曽病院では、入院収益は単価を上昇させるなどしたが、患者数が伸びず大幅な減収となった。外来延患者数の減少により、外来収益も減収となった。
- こども病院では、高額な手術件数の増加などにより、入院収益が増収となった。外来はアレルギー科などの新設により患者数が増加し、外来収益も増収となった。

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>経営に取り組むうえで、資金収支の観点は非常に重要であることから、資金収支の長期見通しを速やかに作成していただきたい。また、作成後は、各年度の決算状況等を踏まえ、更新し続けていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】 ○ 本部事務局 ・第3期中期計画の作成と並行して、資金収支の長期見通しを立てるとともに、院長会議において今後の状況について情報共有を行った。</p> <hr/> <p>【評価】 資金収支の見通しを立て、分析結果を機構内で共有するなど、積極的な取組を行ったことが認められた。</p>

3 病院等別の評価

(1) 信州医療センター

【特に評価する取組】

- 感染症への対応
 - ・ 第二種感染症指定医療機関として COVID-19 に適切に対応したことを評価する。
- 分娩件数
 - ・ 須坂市と連携し、産後うつを予防する取組が「須坂モデル」として先進的な事例として取り上げられるなどし、年度計画を達成したことを評価する。

【今後に向けた課題】

- 県内感染症医療の拠点として、医療関係者の研修等により県内医療の質の向上に積極的に取り組んでいただきたい。
- 内視鏡の検査件数については、年度計画を下回ったことから、課題を検証するなど検査件数の向上に努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>産科の機能強化や分娩件数の増加に向けた様々な取組、県内の感染症医療の拠点としての機能や医療人材の養成機能等を、積極的に広報して、地域に根付かせていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産科医療の充実に向けた取組については、広報誌や SNS を活用し積極的に発信を行っており、須坂市と連携した産後うつ予防の取組「須坂モデル」は各種メディアでも多数取り上げられた。 ・ また、感染症医療の拠点として感染症センターによる院外の医療関係者向けのセミナー開催等の実施により地域の医療水準の向上を図っているほか、本部研修センターのスキルスラボを活用した研修機能等の広報により、臨床研修医確保や実習生受入の実績に繋がっている。 <p>【評価】</p> <p>産科医療の充実について広く周知したことが認められた。 分娩件数については、目標を上回った。 今後も取組を続け、数値目標を達成するとともに、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしていただきたい。</p>
<p>内視鏡センターの増床について、件数増の取組を広げるとともに、令和元年度中に投資に対する分析を行い、課題を検証することで、今後の投資計画の策定に活かしていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡センターでは、昨年から開始された対策型胃内視鏡検診を継続するとともに、件数増加に向けて内視鏡検査の有効性等について情報発信を行っている。 ・ 投資に対する分析と課題の検証については、現在準備を進めている。 <p>【評価】</p> <p>内視鏡検査件数の増加に向け、積極的に取り組んだことが認められたが、検査件数については目標・前年度を下回ったことから、課題を整理し、件数増につなげていただきたい。</p>

(2) こころの医療センター駒ヶ根

【特に評価する取組】

- 児童・思春期精神医療の充実
 - ・こどものこころ診療センターを開設し、発達障がいや児童虐待等への対応を強化したことを評価する。
- 在宅医療の推進
 - ・退院後の生活支援を行い、外出・外泊訓練を手厚く行った結果、退院後3ヶ月以内の再入院率を前年度と比較して抑制した取組を評価する。

【今後に向けた課題】

- 発達障がいや摂食障がいに加え、ゲーム障害など、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、積極的に取組を進めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
発達障がいや摂食障がいなど、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、引き続き取組を進めていただきたい。	【課題への取組】 <ul style="list-style-type: none">・診療部内に「子どものこころ診療センター」を開設し、関係機関との連携強化や家族支援のためのペアレントトレーニングなどを開始した。・精神科病院では取り組みが少ないNSTにより児童・思春期の入院患者をラウンドし栄養サポートを実施した。
	【評価】 <p>ニーズが高まっている児童・思春期精神医療について、患者とその家族に対し手厚い支援を行い、取組が進んだことが認められた。</p>

(3) 阿南病院・阿南介護老人保健施設

【特に評価する取組】

- 認知症への対応
 - ・認知機能が低下した方々に適切に対応し、職員の研修を実施するなど認知症の相談を積極的に実施したことを評価する。
- 在宅医療の充実
 - ・訪問診療等の在宅医療を実施し、下伊那南部地域の地域包括ケアシステムの中核的な役割を担うとともに、訪問看護ステーション「さくら」の開設準備を進めたことを評価する。

【今後に向けた課題】

- 病床利用率の向上に向けた取組について、病床削減を試行的に実施するなど、一定の取組がなされているものの、依然、低い傾向にある。については、取組をさらに加速させるとともに、地域包括ケア病床への転換など、病床機能の転換や人口減少への対

応を積極的に進めていただきたい。

- 介護老人保健施設について、入所者数が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>病床利用率の向上に向けた取組について、病床削減を試行的に実施するなど、一定の取組がなされているものの、依然、低い傾向にある。ついては、向上に向けた短期的な取組をさらに加速させるとともに、持続的な病院運営に向け、病床機能の転換や規模の見直しをさらに進めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用率の低下が懸念される中、病棟検討委員会ワーキンググループにおいて患者の動向を分析し、病床の縮小、あるいは地域包括ケア病床開設を検討して、地域の役割等を考慮して再編を進める。 <p>【評価】</p> <p>令和2年度から、さらに病床削減を図るなど、病床数の適正化についての検討に真摯に取り組んでいることが認められた。地域包括ケア病床の検討など、地域のニーズを把握し、的確に応えていくことを期待する。</p>
<p>介護老人保健施設について、入所者数が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入所者は延 13,700 人で対前年△326 人、△2.3%の減少となったが、圏域施設間で競合が厳しくなっており、想定外の特養入所や死亡退所により平均在所日数が短縮している。要介護度や医療依存度の高い利用者も可能な限り受入れることや、利用者のニーズに応じた入所期間の延長、飯田市内へのアプローチを図ることなどにより稼働率を高めていきたい。 <p>【評価】</p> <p>入所者の減少については問題意識をもって取り組んだことが認められた。</p>

(4) 木曽病院・木曽介護老人保健施設

【特に評価する取組】

- 地域医療構想への対応
 - ・ 医療の質の向上のため、許可病床数を 239 床から 199 床へと変更したことを評価する。
 - ・ 介護医療院「ユーライフきそ」を開院し、地域のニーズに応える体制を整備したことを評価する。

【今後に向けた課題】

- 高齢化社会に対応するため、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、木曽郡内の診療所支援などに引き続き努めていただきたい。
- 介護老人保健施設の利用について、入所者が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。
- 開院した介護医療院の利用者の確保に努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>積極的な取組により、昨年度から入院患者数が増加し、病床利用率が上昇したが、地域の人口は減少傾向にある。については、引き続き、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者サポートセンターを中心に、管内の診療所及び介護老人施設を回り、要望等を聴取して連携の円滑化を図った。 <p>【評価】</p> <p>地域のニーズにあった入院患者の確保に向け、介護医療院を開設するなど、一体的に取り組んだことが認められた。</p>
<p>介護老人保健施設の利用について、通所者を中心に利用者が減少傾向にあることから、引き続き町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 郡内の社会福祉協議会や介護施設へ出向き、地域の要望や意見を聞くとともに広報を行った。 緊急やショートステイの積極的な受け入れ、利用期間の延長等柔軟な対応を行うことで利用者増を図った。また、地元川西区への地域貢献活動の一環として、10月26日に介護予防教室を開催した。(参加者20人) <p>【評価】</p> <p>入所者の減少については広報活動を推進するなど、積極的な取組が認められた。今後も地域のニーズの把握に努め、利用者の確保を進められた。</p>
<p>木曽医療圏の唯一の病院として、人間ドック等の予防医療の提供についても、積極的に取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間ドックに心臓検査コースを新設し、循環器系疾患予防への対応を拡充した。 国保特定健診を郡内町村から受託し、今年度から実施した。 南木曽町・大桑村の乳がん検診、子宮がん検診等の受託及び職員健康診断の受託を開始した。 <p>【評価】</p> <p>人間ドックの受診者の確保について、新たな対象者を開拓するなど、積極的な取組が認められた。</p>

(5) こども病院

【特に評価する取組】

- 地域包括ケアシステムの構築
 - ・訪問診療センターを開設し、医療的ケアが必要な在宅医療を継続する子ども達を積極的に支援したことを評価する。
- 新たなニーズへの対応
 - ・アレルギー外来や頭の形外来の開設など、新たなニーズに積極的に対応したことを評価する。

【今後に向けた課題】

- 給与費が計画・対前年度とも大きく上回っていることから、給与費の抑制について取り組んでいただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>引き続き、医療安全と経営的な視点を両立する職員配置に努め、今後も県内の小児・周産期医療の最後の砦としての役割を果たしていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の小児・周産期医療の中核病院として救命救急医療や専門医療に取り組むとともに、新たなニーズにも積極的に対応していきたい。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>アレルギー外来の開設など、新たなニーズの把握し、小児・周産期医療の提供に取り組んだことが認められた。</p>

(6) 信州木曾看護専門学校

【特に評価する取組】

- 看護人材の輩出
 - ・学校の強みを活かしたカリキュラムと国家試験への手厚いサポートにより、看護師国家試験に高い合格率を示し、県立病院を始めとする、地域医療を担う医療機関に看護人材を輩出したことを評価する。

【今後に向けた課題】

- 教育の質を維持・向上させ、今後も看護人材を輩出し続けるため、関係機関と連携の上、計画的に教員を確保・養成していただきたい。
- 手厚い生徒のサポートなど学校の強みを広報し、学生確保に努めていただくとともに、看護師国家試験の100%合格を目指して取り組んでいただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>教育の質を維持・向上させ、今後も看護人材を輩出し続けるため、関係機関と連携の上、計画的に教員を確保・養成していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立木曾病院より2名の職員を教員として迎えた。 ・大学卒業資格取得のため、2名(新任1、非常勤1)放送大学を受講中である。 ・令和2年度に実施予定の看護教員養成講習会の受講を計画している。 ・管理職の資質向上のため、1名が教務主任養成講習会を受講した。 ・機構本部事務局で「看護教員の配置および養成に関する基本方針」を定めた。 ・看護部長会で人事交流について情報交換を行った。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>機構内で教員の養成に係る問題意識を共有し、看護人材を安定的に排出できるよう体制を整えたことが認められた。</p>

<p>学校の強みを周知するなど、引き続き、積極的に学生確保に努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・62校の高校へ訪問を行い、進路ガイダンスを9回実施した。 ・オープンキャンパスを2回実施し、223人（昨年度+29名）の来場があった。 ・広報委員によって40回のブログの更新をはじめそのほかのメディアを通して学校の様子を発信した。 ・木曾郡内の中学校へ広報活動を行った。
	<p>【評価】</p> <p>様々なメディア利用や、オープンキャンパスの実施など周知を工夫し、学生確保に努めたことが認められた。</p>

(6) 本部事務局

【特に評価する取組】

- 第3期中期計画の作成
 - ・第3期中期計画を各病院と機構が目指す方向性等を共有し、作成したことは、機構職員の経営に対する意識を高めた取組として評価する。

【今後に向けた課題】

- COVID-19など、不測の事態が生じた際、固定費である給与費の影響は大きいことから、人員の配置に当たっては、医療安全と経営的な視点を両立する観点で適切に行っていただきたい。
- 病院機構全体の管理部門であり、人事・給与制度をはじめ、財務、法務、経営企画、情報システムの管理など業務は多岐にわたっているが、常に経営意識を持って費用の圧縮にも努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	課題への取組と県の評価
<p>研修センターの取組を広く周知するとともに、スキルラボの共同利用の促進などにより県内の医療水準の向上にさらに貢献していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルラボ及びシミュレータの案内や借用申請書等をホームページに掲載し、利便性の向上を図った。 ・スキルラボ等を活用し、県内医療従事者が参加するシミュレーション教育指導スキルアップ研修や、信州医療センターにおいて臨床実習を行う信州大学医学生の研修などを実施し、医療技術の向上と医療従事者の育成に取り組んだ。シミュレーション教育指導スキルアップ研修（①～③）の機構外施設からの参加は対前年7施設、延べ42人の増加となった。 （令和元年度：14施設、延べ89人） （平成30年度：7施設、延べ47人） <p>【評価】</p> <p>スキルラボの周知に努め、共同利用の促進に取り組んだことや、シミュレーション教育指導スキルアップ研修の着実な推進が認められた。</p>

(参考) 第2期中期計画との対比

※ 「中期計画」の数値は、平成26年度に作成した数値である。

1 経常収支 (病院機構全体)

(単位：百万円)

科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	H27～R元 年度 累計
経常収益 (ア)	決算	23,222	23,095	23,201	23,763	23,863	117,143
	中期計画	23,325	23,202	23,514	23,553	23,614	117,208
医業収益	決算	16,846	16,710	16,814	17,304	17,402	85,076
	中期計画	16,864	16,728	17,046	17,102	17,183	84,923
うち入院収益	決算	11,962	12,005	12,064	12,482	12,403	60,916
	中期計画	12,107	11,960	12,251	12,307	12,380	61,005
うち外来収益	決算	4,445	4,276	4,312	4,353	4,524	21,909
	中期計画	4,339	4,353	4,381	4,383	4,392	21,848
その他医業収益	決算	439	429	439	469	475	2,251
	中期計画	418	416	414	412	411	2,071
介護老人保健施設収益	決算	373	371	375	362	355	1,836
	中期計画	403	403	403	403	403	2,015
その他経常収益	決算	522	534	532	618	626	2,831
	中期計画	579	591	585	568	549	2,872
運営費負担金収益		5,480	5,480	5,480	5,480	5,480	27,400
経常費用 (イ)	決算	23,185	23,358	23,324	23,346	24,006	117,220
	中期計画	22,916	22,783	22,806	23,023	22,901	114,429
医業費用	決算	21,197	21,355	21,375	21,459	22,034	107,420
	中期計画	20,867	20,785	20,811	21,068	20,999	104,530
うち給与費	決算	11,912	12,333	12,336	12,449	12,679	61,709
	中期計画	11,683	11,693	11,833	12,137	12,228	59,574
うち材料費	決算	3,898	3,749	3,688	3,817	4,037	19,189
	中期計画	3,634	3,633	3,690	3,695	3,703	18,355
うち減価償却費	決算	2,317	2,256	2,174	1,944	1,941	10,632
	中期計画	2,353	2,257	2,089	1,982	1,897	10,578
その他医業費用	決算	3,070	3,017	3,176	3,248	3,377	15,890
	中期計画	3,196	3,201	3,200	3,254	3,171	16,022
介護老人保健施設費用	決算	434	442	424	424	444	2,168
	中期計画	468	459	455	455	459	2,296
その他経常費用	決算	1,554	1,561	1,526	1,463	1,528	7,632
	中期計画	1,582	1,539	1,540	1,501	1,443	7,603
経常損益 (ア-イ)	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	▲ 143	▲ 76
	中期計画	409	419	708	530	714	2,780
経常収支比率 (ア/イ)		100.2	98.9	99.5	101.8	99.4	99.9
臨時損益 (ウ)		▲ 4	0	▲ 7	▲ 1	▲ 5	▲ 17
純損益 (ア-イ+ウ)		33	▲ 264	▲ 130	417	▲ 148	▲ 92

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

2 経常収支（病院等別）

（単位：百万円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	H27～R元 年度 累計
信州医療センター	決算	91	7	▲ 102	132	11	139
	中期計画	207	213	247	219	308	1,195
こころの医療 センター駒ヶ根	決算	36	▲ 41	25	▲ 34	▲ 10	▲ 23
	中期計画	41	51	95	11	▲ 32	166
阿南病院	決算	85	160	208	172	87	712
	中期計画	▲ 60	▲ 57	▲ 40	▲ 37	▲ 40	234
木曽病院	決算	25	▲ 39	▲ 61	85	26	36
	中期計画	311	312	328	288	286	1,525
こども病院	決算	66	6	137	374	96	679
	中期計画	180	148	334	301	439	1,403
介護老人保健施設	決算	0	▲ 6	22	10	▲ 13	14
	中期計画	▲ 2	11	17	19	19	63
看護師養成所	決算	▲ 17	▲ 26	▲ 27	▲ 25	▲ 22	▲ 116
	中期計画	▲ 22	▲ 24	▲ 22	▲ 23	▲ 22	▲ 112
本部	決算	▲ 250	▲ 325	▲ 326	▲ 297	▲ 319	▲ 1,518
	中期計画	▲ 244	▲ 235	▲ 253	▲ 248	▲ 245	▲ 1,225
計	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	▲ 143	▲ 76
	中期計画	409	419	708	530	714	2,780

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

3 資金収支

（単位：百万円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	H27～R元 年度 累計
現金収入	決算	23,996	25,267	24,428	25,159	24,719	123,568
	中期計画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,675
現金支出	決算	23,907	25,690	24,774	25,396	25,554	125,320
	中期計画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632
資金収支	決算	89	▲ 422	▲ 346	▲ 238	▲ 835	▲ 1,752
	中期計画	268	▲ 69	182	▲ 273	▲ 65	42

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

4 病院別の主要経営指標

(1) 職員給与費／医業収益比率

(単位：％)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	63.7	66.5	65.1	63.5	59.9
	計画	61.8	62.1	61.1	62.4	62.1
こころの医療センター駒ヶ根	実績	103.6	110.4	104.3	106.7	103.2
	計画	97.4	97.4	96.7	100.0	102.0
阿南病院	実績	99.9	94.9	91.3	97.3	107.4
	計画	111.8	113.8	117.0	121.4	122.7
木曽病院	実績	60.4	68.5	71.4	70.7	75.2
	計画	59.3	60.0	60.5	62.4	63.0
こども病院	実績	72.1	72.3	72.2	69.2	72.8
	計画	69.3	69.8	68.8	69.6	69.4

(2) 材料費／医業収益比率

(単位：％)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	23.8	24.5	25.1	25.4	28.5
	計画	25.5	26.2	26.0	25.8	25.7
こころの医療センター駒ヶ根	実績	8.0	7.9	8.4	8.5	8.9
	計画	11.6	11.6	11.6	11.5	11.5
阿南病院	実績	18.7	16.8	17.0	17.2	17.7
	計画	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
木曽病院	実績	32.1	27.5	25.1	23.6	22.5
	計画	25.5	25.5	25.5	25.5	25.6
こども病院	実績	20.8	21.6	21.1	21.8	22.3
	計画	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0

(3) 病床利用率

(単位：%)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	82.1	76.0	79.3	81.2	79.9
	計画	73.4	75.8	75.3	76.1	76.4
こころの医療 センター駒ヶ根	実績	77.1	77.4	79.2	78.5	78.1
	計画	79.5	79.8	81.8	81.8	82.2
阿南病院	実績	50.8	58.7	63.7	60.4	57.4
	計画	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
木曽病院	実績	71.1	70.7	64.3	78.1	69.4
	計画	85.4	85.3	84.9	84.6	84.0
こども病院	実績	76.1	76.0	74.5	78.0	73.1
	計画	74.4	74.3	75.3	75.3	75.1

《病床数》

- ・信 州 平成30年11月まで226床、12月から215床（結核病床、感染症病床、地域包括ケア病床を除く）
- ・駒ヶ根 129床
- ・阿 南 平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床
- ・木 曽 平成30年3月まで186床、平成30年4月～154床、令和2年3月から151床
- ・こども 180床